

「平成22年度独立行政法人医薬品医療機器総合機構契約監視委員会
(第3回)」議事概要

I 日 時

平成22年12月2日(木) 14:00～16:00

II 場 所

独立行政法人医薬品医療機器総合機構6階会議室1～2

III 出席委員(敬称略)

中村 洋(慶應義塾大学大学院経営管理研究科 教授)

松田 憲二(有限会社マツダ・ビジネス・コンサルティング 代表取締役)

和田 義博(公認会計士)

前川 行久(独立行政法人医薬品医療機器総合機構 監事)

宗岡 徹(独立行政法人医薬品医療機器総合機構 監事(非常勤))

IV 議 題

- (1) 契約監視委員会開催日以降、来年度当初(4月1日)にかけて入札公告又は契約締結を予定している案件に係る事前点検
- (2) 前回審議した調達予定案件に係る契約締結状況
- (3) その他

V 議事内容

- (1) 契約監視委員会開催日以降、来年度当初(4月1日)にかけて入札公告又は契約締結を予定している案件
契約監視委員会開催日以降、来年度当初(4月1日)にかけて入札公告又は契約締結を予定している案件について概要説明が行われた。その後、一般競争入札(最低価格落札方式)以外の審議案件(一般競争入札(総合評価落札方式)、企画競争、公募、随意契約)について、個別案件ごとに各部より説明を行い、審議が行われた。その後、一般競争入札(最低価格落札方式)の案件について審議が行われた。

委員からの意見・質問に対する当機構の回答	
意見・質問	回答
<p>・機構とデータセンターを結ぶ回線の賃貸借については、既に厚生労働省側で競争入札により契約を行っている場合については、機構は、随意契約によらざるを得なくなってしまう。このような契約案件に関しては、一括して一般競争入札が行えるよう厚生労働省側との調整が必要ではないか。</p> <p>・一部の調査業務については、同じ業者と連続して業務を行う必要があるものとするが、仕様書において、他の者を排除するような内容になっていないか。</p> <p>・一者応札の状況を見ると、特定の業者に集中しているように見えるが、その理由は何か。</p>	<p>・ご意見を踏まえ検討してまいりたい。</p> <p>・本案件については、他の業者も参加できる仕様書となっている。</p> <p>・一者応札となった調達案件については、特定の業者に対し有利となるような仕様書とはなっていないが、結果として、特定の業者が落札しているものと考えている。最近の傾向としては、他の業者が落札しているなど改善が図られてきている。</p>

(2) 前回審議した調達予定案件に係る契約締結状況

前回審議した調達予定案件に係る契約締結状況について、概要説明が行われた。

委員からの意見・質問に対する当機構の回答	
意見・質問	回答
<p>・契約の締結状況を見ると、一般競争入札において、低価格による入札が増えてきている状況を踏まえると予定価格の適正性に努めることが重要であるとするが、この点に関しどのような認識をもっているのか。</p>	<p>・予定価格の設定に際しては、市場価格を勘案し、適正性の確保に努めているが、一般競争入札において、入札金額が極めて低い場合には、仕様書に定めた納期に業務が履行されないなど、機構の業務に支障が及ぶことから、仕様書の作成に当たっては、誤解を招くことのないよう、適切な仕様書を作成することが重要であると認識している。また、入札説明会に際し</p>

<p>・履行能力のある業者を確保するためにも、仕様書に工夫を凝らすことが重要ではないか。</p>	<p>ては、適切な説明を行い、誤解を生ずることがないように対処することも重要であるものと認識している。</p> <p>・今後とも、適切な仕様書の作成に努めることといたしたい。</p>
--	---

(3) その他

契約監視委員会において、既に審査済みの随意契約案件のうちリース契約については、契約の終期到来時に、一般競争入札に移行する予定である旨の説明が行われた。

また、一般競争入札（企画競争）に参加した業者が1者となっている契約案件のうち、説明会には参加したものの入札に参加しなかった業者を対象に11月以降アンケート調査を実施している旨の説明が行われた。